

実施日：1月30日	
教科等：国語科	
取組名：人間同士のつながりについて大切にしたいことを考えよう (資料「弱いロボットだからできること」5年東京書籍)	
対 象：5年生	実施場所：教室
ア ねらい 弱いロボットだからできることについて考える学習を通して、人間同士のつながりに大切に する心情を育てる。	
イ 指導内容（指導略案）や取組の概要 第5～6時において、人権の視点を取り入れた授業を行う。 <u>第1時～第4時</u> 教材文を通読し、「ロボット開発は進む」での高性能なロボットとの比較検討をしながら、なぜ このようなロボットが生まれているのかについて考える。 <u>第5時</u> 弱いロボットの存在意義や開発理由について筆者の主張を読み取り、弱さとながりについて 考える。 <u>第6時</u> ・ 今までに自分が周りに支えてもらった具体的な場面を確認した上で、ロボットのことだけで なく、人間同士のつながりで大切にしたいことを考える。 ・ 人間同士のつながりについて、考えたことを伝え合い、様々な考え方に触れながら、人間同 士のつながりの大切さについての理解を深める。	
ウ 連携先：家庭、全校生	
エ 連携にむけての取組 ・ 学級通信を通じて、学習の進捗状況とともに学習のねらいを示し、家庭でも個性を尊重し、互 いを認め合えることができるよう啓発する。 ・ 全校生に人間同士のつながりの大切さについて発表する機会をもち、周りの人たちとのつなが りの大切さについて考える機会とする。	
オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点 ・ 普段の授業から、人間同士のつながりをより密にしていくための協働的な学習を行うことを全 教職員が共通理解をする。 ・ 人間同士がつながる際に必要な言葉のコミュニケーションを学び、発達段階に合わせた「自分 も相手も大切にすることが大切」によって、温かい人間関係を築けているかを確認する。	
カ 評価の方法 ・ 発表 ・ ワークシート ・ 人権アンケート	
キ 成果 強いロボットがいいと思っている児童にとって、弱いロボットだからこそ助け合いが生まれる という新たな考え方を学ぶことができ、人間同士の関係についても、友だちとの違いを認め合い、 悩んでいる時や困っている時に助け合うことの大切さに気付くことができた。	
ク 課題 家庭との連携について、授業内容や児童の意見を通信で保護者に伝えることができたが、さら に家庭で深めていくために、保護者と児童が意見交流をするなどの取組もできればよかった。	